

「熱帯林業」新誌 70 号を迎えて

林 久 晴

本誌は、1984 年（昭和 59 年）刊行以来 23 年間かけて 70 号の刊行を迎えました。旧「熱帯林業」誌（熱帯林業協会が 1966 年より刊行）から通算すると、41 年、142 号となり、まさに東南アジア諸国からの木材の開発輸入が華やかな頃に始まり、今日まで途絶えることなくその歴史を刻んできました。

編集方針は、一貫してその時代の熱帯林調査研究の成果、プロジェクトの活動、国際会議の動向等を記録し、一方で熱帯樹木、社会林業などの基礎的知識の解説、新刊本の紹介等々連綿と熱帯林関連の基礎的知見の集積を追求してきたように思われます。

本誌が刊行された 41 年間に、わが国の海外林業協力は大きな変革を遂げつつ世界各地で展開されてきました。

とりわけ、我が国の 2 国間の海外林業協力は、1977 年フィリピン・パンタバンガンの植林プロジェクト発足を端緒として一気に活発化し、それまでの限られた専門家、研究者に加えて多くの林業技術者が専門家として新たに参画するようになりました。

当時、初めて海外林業協力に参加する専門家は、相手国の自然、経済、社会、慣習などの知識、情報が欠乏する中で、夫々が国有林や民有林で培った技術をそのまま移転することが協力になると信じて活動せざるを得ない状況に置かれていたように思います。

そんな中で、「熱帯林業」誌は、実績を残された諸先輩が記録し、それを糧にして後輩がまた実績を残し、それを記録にとどめる上でかけがえのない場を提供し続けることによって、専門家の活動の大きな支えとなり、わが国の海外林業協力の着実な前進、質的な向上の大きな原動力になったと思います。

今日の海外林業協力の中心的課題は、地球温暖化防止、生物多様性保全などの地球環境問題という大きな枠組みの中に組み込まれ、それへの対応にかつてない期待と新たな展開が求められる状況にあり、関係者には新分野の研究・調査への努力とともに、温故知新、本誌に納められた知見・知識の活用と、本誌への更なる知見・知識の集積が期待されることです。

森 徳典編集委員長はじめ編集委員各位の本誌にかけるご熱意とご努力に敬意を表しますとともに、本誌がこれまで以上に海外森林・林業に携わる者の技術情報誌としての役割を果たしていけるように、会員各位の協力の下に一層充実した内容で継承されていくことを願うものです。

Hisaharu Hayashi : On the 70th Issues (N.S.) of “The Tropical Forestry”
(財)国際緑化推進センター